

設計力強みに宇宙へ

若者の衛星製作支える

瓦向けの金型・プレス機作りで事業を興し、現在は多様な業界の試作部品を生産する石敏鉄工。自社開発の超小型人工衛星向け筐体フレーム「MBF」製作でも実績を重ねる。現在、国際科学教育協会（京都市伏見区）主催のジュニア向け衛星プロジェクトで、フレーム加工や若者に設計の助言をする役割を担う。その中で、潜在する自社の強みを見いだした。

2020年始動のジュニア向け衛星プロジェクト（JAXA）が進めるユニア向け衛星プロジェクトの実証実験を担う。レイアウトは、国際科学教育協会主催のジュニア向け衛星プロジェクトで能力を証明した小宇宙へ放出して地上から学生から大学生のメンバーを照射。反射バーで構成。主目的は光を検知するまでの時間人材育成だが、協会と間を計測することで衛星軌道高精度に把握

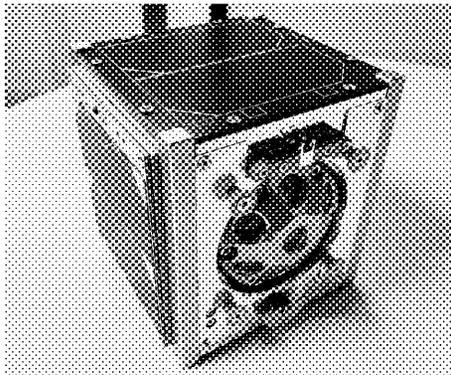
石敏鉄工

次代を担う 9 中部企業

石敏鉄工は22年5月から筐体フレーム設計に参加。既に試作機を完成し、各種試験に備える。合格後に最終モデルを製作し24年6月に衛星を宇宙へ放出する予定だ。フレームが



●石川社長（中央）と加工に携わった社員●プロジェクトで製作した超小型人工衛星



MBF、レーザー反射装置がJAXA開発の物を前提とする仕様。限定した条件の下で工夫を強いられたのが開発期間の短縮につながった。短期開発は学生が設計の力ギだ。その精度調整も不要。MBF自体の優位性を売心が高く、負けていけない」（同）と驚く。共に気付きを与え合う、宇宙へ着々と進む。（名古屋）（随時掲載）

が在学中にミッションを終えられる利点もある。この工夫に同社の知見が生きた。フレームはアルミプロム仕様を要できない。搭載機器の組み付け時に設計の力ギだ。その精度調整も不要。MBF自体の優位性を売心が高く、負けていけない」（同）と驚く。共に気付きを与え合う、宇宙へ着々と進む。（名古屋）（随時掲載）

【企業概要】

▷所在地=愛知県碧南市須磨町5の17▷代表者=石川美良氏▷資本金=1000万円▷設立=76年（昭51）9月▷従業員=15人